資料１

平成 27 年 11 月 17 日
社 会 福 祉 法 人
練馬区社会福祉事業団

平成 26 年度民営化特別養護老人ホーム等の運営状況について

１　法人全体　　・・・・・・・・・・・・ｐ１

２　田　　柄 特別養護老人ホーム等・・・・ｐ２～６

３　関　　町 特別養護老人ホーム等・・・・ｐ７～１１

４　富士見台 特別養護老人ホーム等・・・・ｐ１２～１８

５　大　　泉 特別養護老人ホーム等・・・・ｐ１９～２４

1　法人全体

■　施設運営上の課題と取組の方向性

①　平成 26 年度～平成 27 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア　平成 27 年度の介護保険制度改正への対応

平成 27 年度に介護保険制度の改正がありました。この改正が行われたことにより、事業団にとっては経営面で影響を受けることとなりました。前年度から業務執行役員等で検討を行い、準備した結果、介護保険制度改正の影響は最小限に止めることができています。

イ　地域貢献事業の取り組み

社会福祉法人の社会的使命である地域貢献事業について、職員からの提案を基に認知症カフェの検討を始め、11 月から開始します。

ウ　高齢者相談センター（地域包括支援センター）業務の安定的な運営

平成 27 年度から受託している光が丘高齢者相談センター業務について、地域包括ケアシステム構築の中核機関としての役割を果たすために、担当圏域のニーズを把握し、包括的支援業務を着実に実施します。

エ　人材確保の取り組みについて

平成 26 年度に、人材確保に関する検討会を６回開催し、今後の人材確保の取り組みについて整理しました。

②　平成 27 年度下半期～平成 28 年度の取り組み予定

ア　中期計画の策定

法人における平成 28 年度から５年の取り組みの方向を明示し、具体的な施策を明らかにするため第２期中期計画を策定しています。

イ　介護保険制度改正による影響

平成 27 年度の介護保険制度改正による各事業への影響について、毎月の月次データで確認し課題があれば検討を行い、安定した経営を目指します。

ウ　介護人材の不足への対応について

平成 26 年度に人材確保について検討した「新卒者の採用」や「職員の定着」等の各項目について、具体的な取り組みを開始しました。

エ　施設の老朽化への対応について

特別養護老人ホームは 24 時間 365 日運営している施設ですので、20 年経った施設では空調設備等の更新が必要な時期になっています。事業団が行っている修繕経費も増えているため、今後の大規模改修の時期等について、引き続き練馬区との協議が必要です。

2　田柄特別養護老人ホーム等

⑴　収支状況

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
特別養護老人ホーム	①　歳入	436,408 千円	歳入	441,154 千円	歳入	－4,746 千円
	介護保険	434,444 千円	介護保険	439,128 千円	介護保険	－4,684 千円
	その他	1,964 千円	その他	2,026 千円	その他	－62 千円
	②　歳出	425,809 千円	歳出	421,691 千円	歳出	4,118 千円
	人件費	285,469 千円	人件費	283,040 千円	人件費	2,429 千円
	運営費	123,802 千円	運営費	120,640 千円	運営費	3,162 千円
	その他	16,538 千円	その他	18,011 千円	その他	－1,473 千円
	①　－②収支	10,599 千円	収支	19,463 千円	収支	－8,864 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
ショートステイ	①　歳入	36,713 千円	歳入	40,111 千円	歳入	－3,398 千円
	介護保険	36,682 千円	介護保険	40,027 千円	介護保険	－3,345 千円
	その他	31 千円	その他	84 千円	その他	－53 千円
	②　歳出	36,326 千円	歳出	37,204 千円	歳出	－878 千円
	人件費	24,605 千円	人件費	23,786 千円	人件費	819 千円
	運営費	11,708 千円	運営費	11,074 千円	運営費	634 千円
	その他	13 千円	その他	2,344 千円	その他	－2,331 千円
	①　－②収支	387 千円	収支	2,907 千円	収支	－2,520 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
デイサービスセンター	①　歳入	106,498 千円	歳入	110,938 千円	歳入	－4,440 千円
	介護保険	106,414 千円	介護保険	110,566 千円	介護保険	－4,152 千円
	その他	84 千円	その他	372 千円	その他	－288 千円
	②　歳出	103,104 千円	歳出	104,359 千円	歳出	－1,255 千円
	人件費	69,093 千円	人件費	71,897 千円	人件費	－2,804 千円
	運営費	29,282 千円	運営費	26,890 千円	運営費	2,392 千円
	その他	4,729 千円	その他	5,572 千円	その他	－843 千円
	①　－②収支	3,394 千円	収支	6,579 千円	収支	－3,185 千円

⑵　利用者状況

①　定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	100 人	365 日	36,500 人
ショート	8 人	365 日	2,920 人
デイ	40 人	309 日	12,360 人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

②　利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特　養	－	－	12 人	37 人	89 人	435 人	616 人	1,189 人	4.4
ショート	0 人	0 人	33 人	134 人	202 人	117 人	161 人	647 人	3.4
デ　イ	28 人	55 人	279 人	468 人	300 人	119 人	95 人	1,344 人	2.4

※平均要介護度＝要介護１～５利用者の介護度合計／要介護１～５利用者数計

③　延利用者数

	延 利用者数計	稼動率
特　養	35,400 人	97%
ショート	3,127 人	107.1%
デ　イ	10,697 人	86.5%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

④　新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	30 人	28 人	2 人
デイ	42 人	37 人	5 人

⑶　施設運営状況

①　苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 26 年 6 月	高齢者相談センターから依頼のあった入居のお客様の長女が、練馬区保健福祉サービス苦情調整委員に苦情の申し立てをされ、22 項目の説明を求める質問がありました。	法人として回答しました。 練馬区保健福祉サービス苦情調整委員からの指摘、施設側との意思疎通の不足、職員の態度、荷物の置き場所については改善しました。
デイサービス	平成 26 年 11 月	デイの送迎中、都営住宅の敷地から公道にでるとき歩道で 15 秒ほど止まりました。「歩道に長時間車を止めているのはおかしい」、「運転手の態度が悪い」、と電話で苦情の申し出がありました。	所長より、やむを得ない状況で歩道に車を止めるときは添乗員が降車して歩行者の誘導をしたり、謝罪をすることを送迎員・添乗員に周知徹底しました。

②　事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
ショートステイ	平成 26 年 7 月	夜間、フットコール対応をしていたショートステイ利用中のお客様のフットコールが鳴ったため居室のドアを開けたところ「ドスン」という音がして転倒されました。大腿骨転子部骨折で入院となりました。	入院して手術を実施し、リハビリ病院へ転院されました。 以前より特養の申し込みをされていた方で 10 月に順番がきて、入居されました。 現在は車いすで生活されています。
特養	平成 26 年 7 月	談話室から食堂へ歩行中、よろめいて転倒されました。大腿骨頸部骨折で入院となりました。	退院後はベッドサイドにフットコールを設置し、頭部保護帽子、大腿骨保護パンツ着用は継続しました。

③　地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養	平成 27 年 1 月	「まる得！若返り教室」を継続実施しました。地域の介護予防に貢献するとともに必要な社会資源につなげる役割を果たしています。
デイ	平成 27 年 3 月	デイサービス主催で「認知症サポーター養成講座」を実施し 24 人のサポーターを養成しました。

④　研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養 デイ	平成 26 年度	外部専門家を招いて、指導・評価を受け、事例検討を通して職員の対応力を高める認知症ケア実践の推進事業に年間を通して取り組みました。
特養 デイ	平成 26 年 12 月	職業倫理の大切さを認識してもらう研修を、施設長や相談員等が講師となり、全職員に実施しました。

⑤　配置人員数【平成 27 年３月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常　勤	非常勤	
特養（ショート含）	1	38 人	10 人	46.3 人	4 人	5 人	8.0 人	6 人	11 人	74 人
		（　33 人）			（　3 人）					
デイ	1	4 人	12 人	12.1 人	1 人	1 人	1.2 人	2 人	11 人	31 人
		（　6 人）			（　　1 人）					

⑥　介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	42 人	1 人	1 人
	非常勤	25 人	1 人	4 人
看護師	常勤	4 人	2 人	1 人
	非常勤	5 人	2 人	1 人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、平成 26 年４月１日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、平成 26 年４月２日から平成 26 年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

⑷　施設運営上の課題と取組の方向性

①　平成 26 年度～平成 27 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア　家族との一層の協力体制の構築

「ご家族はパートナー」を合言葉にご家族の役割を明確にして一緒に入居のお客様を支える仕組みを作ります。平成 27 年 4 月より預かり金制度を廃止し、施設で行っていた日用品の補充をご家族や後見人にしていただくように変更しました。

イ　ショートステイ事業の充実

ショートステイ事業の見直しも平成 27 年度で 3 年目に入りました。提供プログラムの月間活動計画を配布しています。利用率も向上し平成 27 年度上半期は 110.2%です。

ウ　認知症ケアの充実

外部専門家をアドバイザーに招き、職員の対応力を高める認知症推進事業を３Ｆフロアーで取り組み、大きな成果がありました。２７年度は２Ｆフロアーでも実施しています。

②　平成 27 年度下半期～平成 28 年度の取組予定

ア　将来をみすえた組織作り

今後見込まれる人材不足に備え、業務の縮減と効率化を図り、サービスのあり方を検討します。離職を防ぐための「働きやすい職場作り」にも取り組みます。

イ　地域貢献

介護予防事業「まる得！若返り教室」の事業を継続するとともに地域と協調し貢献できる事業等を積極的に進めます。法人の地域貢献事業の認知症カフェ「オレンジカフェたがら」を田柄特養で開催します。

ウ　収入の確保

平成 27 年度の制度改正では、特別養護老人ホームは基本報酬が６%引き下げられました。できるだけ加算を取得し収入を確保する努力をしていますが、前年度と比較すると収支差額は減少する見込みです。目標の利用率を維持していくことに努めます。

3　関町特別養護老人ホーム等

⑴　収支状況

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
特別養護老人ホーム	③　歳入	335,170 千円	歳入	332,087 千円	歳入	3,083 千円
	介護保険	300,657 千円	介護保険	295,931 千円	介護保険	4,726 千円
	その他	34,513 千円	その他	36,156 千円	その他	－1,643 千円
	④　歳出	335,170 千円	歳出	332,087 千円	歳出	3,083 千円
	人件費	228,287 千円	人件費	224,641 千円	人件費	3,646 千円
	運営費	99,445 千円	運営費	100,350 千円	運営費	－905 千円
	その他	7,438 千円	その他	7,096 千円	その他	342 千円
	③－④収支	0 千円	収支	0 千円	収支	0 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
ショートステイ	③　歳入	44,867 千円	歳入	42,519 千円	歳入	2,348 千円
	介護保険	44,833 千円	介護保険	42,434 千円	介護保険	2,399 千円
	その他	34 千円	その他	85 千円	その他	－51 千円
	④　歳出	44,831 千円	歳出	44,885 千円	歳出	－54 千円
	人件費	29,371 千円	人件費	29,076 千円	人件費	295 千円
	運営費	15,138 千円	運営費	14,825 千円	運営費	313 千円
	その他	322 千円	その他	984 千円	その他	－662 千円
	③－④収支	36 千円	収支	－2,366 千円	収支	2,402 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
デイサービスセンター	③　歳入	111,348 千円	歳入	113,780 千円	歳入	－2,432 千円
	介護保険	110,724 千円	介護保険	113,289 千円	介護保険	－2,565 千円
	その他	624 千円	その他	491 千円	その他	133 千円
	④　歳出	115,942 千円	歳出	119,030 千円	歳出	－3,088 千円
	人件費	68,156 千円	人件費	69,777 千円	人件費	－1,621 千円
	運営費	34,477 千円	運営費	33,800 千円	運営費	677 千円
	その他	13,309 千円	その他	15,453 千円	その他	－2,144 千円
	③－④収支	－4,594 千円	収支	－5,250 千円	収支	656 千円

⑵　利用者状況

①　定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	70 人	365 日	25,550 人
ショート	10 人	365 日	3,650 人
デイ	40 人	309 日	12,360 人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

②　利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特　養	－	－	0 人	20 人	127 人	345 人	333 人	825 人	4.2
ショート	0 人	1 人	14 人	67 人	122 人	117 人	104 人	425 人	3.5
デ　イ	40 人	115 人	432 人	315 人	310 人	218 人	108 人	1,538 人	2.5

※平均要介護度＝要介護１～５利用者の介護度合計／要介護１～５利用者数計

③　延利用者数

	延 利用者数計	稼動率
特　養	24,456 人	95.7%
ショート	3,463 人	94.9%
デ　イ	10,641 人	86.1%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

④　新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	13 人	13 人	0 人
デイ	51 人	38 人	13 人

⑶　施設運営状況

①　苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 27 年４月	本人が入れ歯を外せないのでいるので職員へ依頼したが、「ハイ」と返事をしたまま他の仕事をしていたと、お客様の知人から苦情がありました。	不手際についてその場で謝罪し、当該職員には直ぐに対応出来ない時は、他職員へ引き継ぐことを指導しました。
特養	平成 27 年４月	おやつ時にラクーナゼリー（水分補給飲料水）が出ていない事を言っていたのにその後も出ていない。	ご家族へ謝罪し、直ぐに対応しました。また、ラクーナゼリーの対象者を精査し、報告・連絡と記録をルール化しました。

②　事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
デイ	平成 27 年７月	車いすリフト昇降時に跳ね上げ式バッグドアが上部の店舗の看板に接触しそうな事に気をとられ、リフトの縦シャフトとかみ合ってしまい作動停止し、修理を要した。	空のリフトだった為、お客様への影響は有りませんでした。送迎員には安全な場所での停車およびリフト操作前の安全確認の徹底を指導しました。
特養	平成 27 年１月	左足指４指と５指の亀裂骨折。 94 歳介護度５認知症レベル重度。 入浴時に靴下を脱がせた際に広範囲に内出血があるのを介護士が発見した。	本人からの聞き取りは難しく原因不明です。ご家族に説明し、考えられる要因を精査したうえ、居室内の環境改善を図りました。

③　地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養 デイ	通年	言語リハビリ教室（９回）、その他、「暑い夏を元気に過ごす食事」、認知症サポーター養成講座等、講習会を計 15 回開催しました。
特養	通年	区内中学校へ総合学習プログラムの福祉体験授業の講師として、特養介護士を３名派遣しました。その他、近隣の中学校より体験学習の受け入れ、障がい者施設の方による訪問パン販売の会場提供等の協力をしました。

④　研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	平成 26 年５月より認知症ケアの充実に向け、外部の専門講師を入れた事例検討や講習会を毎月開催し、現在も継続しています。
特養	通年	施設内の感染症予防対策委員会で、感染症・食中毒の予防を通年対策とし、26 年度は 12 回の予防研修を開催。27 年度も引き続き行っています。

⑤　配置人員数【平成 27 年３月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常　勤	非常勤	
特養（ショート含）	1	31 人	7 人	35.3 人	5 人	1 人	5.5 人	5 人	8 人	57 人
		（　24 人）			（　3 人）					
デイ	1	5 人	8 人	10.8 人	1 人	2 人	1.8 人	1 人	10 人	27 人
		（　　6 人）			（　　1 人）					

⑥　介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	34 人	3 人	1 人
	非常勤	13 人	5 人	3 人
看護師	常勤	6 人	人	人
	非常勤	3 人	人	人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、平成 26 年４月１日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、平成 26 年４月２日から平成 26 年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

⑷　施設運営上の課題と取組の方向性

①　平成 26 度～平成 27 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア　経営基盤の安定に向けた取り組み

平成 26 年度特養・短期入所合算での利用率は 95.61%、前年比で改善しました。平成 27 年度は介護報酬改定より加算要件を精査し、要件を満たせる体制を整えた他、利用率目標を特養 98%、短期入所 100%に引き上げ、利用率向上に向けた一層の取り組みを推進します。しかしながら、平成 27 年度の介護報酬のマイナス改定の影響は特養単体での収支改善をさらに厳しくしている他、施設の老朽化に伴う経費増も大きな要因となっています。

イ　人材育成に向けた取り組み

「良好なコミュニケーションの基に業務が機能する職場風土」をコンセプトに人材育成のチームを設け、「コミュニケーション力」と「チーム力」の向上を重点にした取り組みを行いました。その結果、職員の高い定着率を継続しています。

今後は、介護労働市場が不透明なため、組織の成熟度を高めていく取り組みが必要です。

ウ　人権尊重とサービス向上に向けた取り組み

・行動規範の根底に人権尊重の概念は絶対要件です。人権担当のチームを設け施設内研修を開催し、人権尊重の視点からプライバシー保護、虐待防止、身体拘束ゼロの推進、個人情報保護など、コンプライアンス意識の醸成を図りながらサービス向上につなげていくように取り組みました。

・ショートステイ事業を特養との一体介護から区別化し、専任の介護士を設けたグループ介護の方式に改善しました。結果、お客様の満足度と利用率の向上につながりました。

・認知症介護の充実を図り、外部の専門の講師を毎月招いた事例検討会や講習会を開催しました。

・介護リフトや移乗の福祉用具を整備した他、低床ベッドの導入を図り、お客様の安全・安心と介護士の介護負担の軽減に取り組みました。

②　平成 27 年度下半期～平成 28 年度の取組予定

ア 併設する事業所と合わせた拠点会計を基準に経営改善を図ります。施設内に経営改革会議を設置し、特養・デイサービス・居宅介護事業・訪問介護事業の共通の経営課題を一体で取り組みます。

イ　施設の老朽化に伴う設備・機械の更新を整理をします。躯体については区と協議します。

ウ　人材育成を引き続き重点課題とし、組織の成熟度を高め、人材の定着につなげます。

エ　今後のマイナンバー制度の導入等、コンプライアンスの遵守に取り組みます。

オ　新たに介護アシストロボットを今年中に導入し、更にお客様の安全安心と介護負担の軽減に取り組みます。

カ　定期に地域の自主健康サークルへ看護師を講師派遣し、地域貢献に取り組みます。

キ　食中毒および感染症予防の徹底と職員の予防管理に取り組みます。

4　富士見台特別養護老人ホーム等

⑴　収支状況

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
特別養護老人ホーム	⑤　歳入	254,203 千円	歳入	247,315 千円	歳入	6,888 千円
	介護保険	227,897 千円	介護保険	223,715 千円	介護保険	4,182 千円
	その他	26,306 千円	その他	23,600 千円	その他	2,706 千円
	⑥　歳出	254,203 千円	歳出	247,315 千円	歳出	6,888 千円
	人件費	175,242 千円	人件費	172,749 千円	人件費	2,493 千円
	運営費	74,428 千円	運営費	71,253 千円	運営費	3,175 千円
	その他	4,533 千円	その他	3,313 千円	その他	1,220 千円
	⑤－⑥収支	0 千円	収支	0 千円	収支	0 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
ショートステイ	⑤　歳入	27,675 千円	歳入	28,559 千円	歳入	－884 千円
	介護保険	27,566 千円	介護保険	27,929 千円	介護保険	－363 千円
	その他	109 千円	その他	630 千円	その他	－521 千円
	⑥　歳出	26,886 千円	歳出	39,316 千円	歳出	－12,430 千円
	人件費	13,213 千円	人件費	13,331 千円	人件費	－118 千円
	運営費	9,873 千円	運営費	9,140 千円	運営費	733 千円
	その他	3,800 千円	その他	16,845 千円	その他	－13,045 千円
	⑤－⑥収支	789 千円	収支	－10,757 千円	収支	11,546 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
デイサービスセンター	⑤　歳入	156,858 千円	歳入	163,877 千円	歳入	－7,019 千円
	介護保険	156,302 千円	介護保険	162,990 千円	介護保険	－6,688 千円
	その他	556 千円	その他	887 千円	その他	－331 千円
	⑥　歳出	144,575 千円	歳出	138,157 千円	歳出	6,418 千円
	人件費	86,016 千円	人件費	85,713 千円	人件費	303 千円
	運営費	34,433 千円	運営費	32,905 千円	運営費	1,528 千円
	その他	24,126 千円	その他	19,539 千円	その他	4,587 千円
	⑤－⑥収支	12,283 千円	収支	25,720 千円	収支	－13,437 千円

⑵　利用者状況

①　定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	50 人	365 日	18,250 人
ショート	6 人	365 日	2,190 人
デイ	40 人	309 日	12,360 人
認知症デイ	12 人	309 日	3,708 人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

②利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特　養	―	―	19 人	20 人	31 人	169 人	353 人	592 人	4.4
ショート	0 人	8 人	35 人	41 人	106 人	67 人	112 人	369 人	3.4
デ　イ	36 人	58 人	255 人	567 人	192 人	123 人	93 人	1,324 人	2.4
認知症デイ	0 人	0 人	10 人	25 人	116 人	102 人	92 人	345 人	3.7

※平均要介護度＝要介護１～５利用者の介護度合計／要介護１～５利用者数計

③利用者数（延数）

	延 利用者数計	稼動率
特　養	17,740 人	97.2%
ショート	2,225 人	101.6%
デ　イ	11,253 人	91.0%
認知症デイ	3,246 人	87.5%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

④　新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	11 人	11 人	0 人
デイ	31 人	26 人	5 人
認知症デイ	18 人	14 人	4 人

⑶　施設運営状況

①　苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 27 年２月	３時のおやつはお茶だけでは物足りません。（お茶の種類が少ない）	ほうじ茶、煎茶、紅茶、牛乳、ココアの５種に増やしました。今日は何かなと、日常の中の変化を楽しんでいただいています。
デイ	平成 27 年３月	新聞が１紙しかないため読む順番がなかなか来ない。スポーツ新聞も取ってほしい。	他のお客様のご希望等もお聞きし、スポーツ新聞の種類を決めて翌日から追加しました。大切な情報源になっている方もあり大変喜ばれました。

②　事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 26 年９月	頭部外傷：日常は歩行補助器を使用しているが、トイレから出た後に歩行器を使わず歩行し転倒する。救急対応、動脈性出血あり、病院にて頭部５針ステープラーにて止血する。レントゲン・CT にて骨折はなし。	１ヶ月の経過観察。自力での行動のできる方ではあるが、歩行は不安定なため、トイレ使用時は行動の解るところで待機しています。
特養	平成 26 年 10 月	右大腿骨転子間骨折：早朝、トイレに向かう途中で転倒、受診の結果は手術対象の診断を受ける。103 歳で心不全もある為、家族は手術を断り、施設での療養を希望される。	ベッド上安静の為、褥瘡・尿路感染・肺炎・肺塞栓・敗血症等を予防したケアとし、経過観察のための通院をしました。

③　地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養 デイ	通年	練馬区から受託している筋力向上トレーニング修了者の自主グループ（むらさきの会、さつき会）に週２日毎１時間、シニア貯筋教室に週１日１時間リハビリ室を解放する他、地域ボランティア（福朗会）の活動のための定期的な施設開放・施設での活動支援をしました。また、施設介護サポーター養成に引き続き、高齢者支え合いサポーター育成研修に関わり、区内施設へのコーディネートを担当しました。
特養 デイ	通年	施設長をはじめ職員は、大学での「社会福祉施設の実際」「福祉施設の高齢者」「大学で介護福祉を学ぶこと」、練馬認知症の人と家族の会での「特養での看取りケア」、日本看護協会看護研修学校での「認知症看護援助方法論　生活環境づくり」「これからの特別養護老人ホームにおける看護リーダー養成研修」、区内小・中学校での「総合学習プログラム福祉体験授業」等への出講のほか、東京都介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修事業、東京都介護職員スキルアップ研修事業等に携わっています。また、法人以外の施設からの研修依頼・施設見学は日程調整の上お断りすることなく対応しています。

④　研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	平成 26 年度、練馬介護人材育成・研修センターでの研修を延 69 名受講、外部研修を延 26 名受講する他、施設内では 19 のテーマの伝達研修に延 375 名が参加し、介護サービスの質の維持向上に繋げました。
特養 デイ	通年	法人の認知症ケア推進に係る取り組み「グランドデザイン」のもと、平成 26 年５月より毎月専門アドバイザーによる「事例検討会」を開催し、認知症高齢者への対応能力の向上を図りました。

⑤　配置人員数【平成 27 年３月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常　勤	非常勤	
特養（ショート含）	1	21 人	4 人	23.8 人	4 人	4 人	5.7 人	3 人	7 人	43 人
		（　16 人）			（　3 人）					
デイ	1	6 人	12 人	15.5 人	1 人	2 人	1.4 人	3 人	16 人	40 人
		（　8 人（認知症 2 人））			（　　1 人）					

⑥　介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	28 人	人	2 人
	非常勤	17 人	人	1 人
看護師	常勤	5 人	人	人
	非常勤	5 人	2 人	1 人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

※年度当初職員数は、平成 26 年４月１日時点の在籍職員数

※年度内入職者数は、平成 26 年４月２日から平成 26 年度末までに入職した職員数

※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

⑷　施設運営上の課題と取組の方向性

①　平成 26 年度～平成 27 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア　特別養護老人ホーム

・平成 26 年度は月末在籍 47 名～50 名で推移し、６カ月は月末満床年間利用延べ人数 17,740 人（最大 18,250 人）前年比＋139 人となった結果、年間平均利用率が 97.2%平成 25 年度の年間平均利用率の 96.4%に比し＋0.8%となり、介護保険事業収益が対前年度比 101%　1,288 千円の増収に繋がりました。

　平成 27 年度上半期も利用率は 97%台を維持し、退所後には入所を待っている方が早急に利用できるよう体制を整えています。

・平成 27 年度介護報酬改定による基本報酬での減収を、加算要件の変更に対応した体制を作り、サービスの質向上とともに減収を最小限にする取り組みをしています。

・施設での終末期ケア・看取りを積極的に実践しています。平成 26 年度 11 名の退所の方は全員看取り希望でしたが、急変や希望の変更等があり入院先でのご逝去が３名、長期入院２名となりました。平成 27 年度は施設看取り数が希望数と同数となっています。

イ　ショートステイ

・事前予約調整の時点では 100%の予約を入れ、空床はないように調整しました。長期申し込みの方の入院や施設入所でのキャンセルを、キャンセル待ちの方で全ての日程を埋めることはできませんでしたが、年間平均利用率は 101.6%　平成 25 年度 100.3%に比し＋1.3%の改善となりました。

・年間を通して５%の緊急短期入所体制を維持し、その利用を積極的に受け入れました。緊急短期入所年間数 115 日に対し 67 日 58.2%を緊急短期受入加算対象としました。

平成 27 年度は、制度としての緊急短期入所体制加算は廃止されましたが、ショートステイのキャンセルや特養の入院空床がある場合には積極的に緊急利用を受け入れています。

・平均介護度は 3.7（平成 25 年度 3.3）在宅酸素、胃ろう、留置カテーテル、インシュリンなど医療ニーズの高い方への対応も受け入れました。ショートステイの場合も医療との連携を強化し、訪問診療医の指示や意見を確認しながら終末期の方も受け入れました。

ウ　新会計基準の会計拠点として

・平成 26 年度より新会計基準に移行しました。富士見台特別養護老人ホームは、12 事業の拠点のうち９事業は黒字決算で、３事業の赤字を飲み込み、3,000 万円を超える収益を得ました。

②　平成 27 年度下半期～平成 28 年度の取組予定

ア　特養利用率の維持

・市中感染症の持ち込みを防止し、施設職員の他、委託事業者職員やボランティア、ご家族を対象にした感染症予防研修を繰り返し行い、感染症防止の意識を維持します。

・病態変化による入院があった場合には、ご家族・医療機関と連絡をとり病状説明に同席し、施設での療養が可能な場合には早期に施設への受け入れをします。

・家族懇談会にて施設における終末期ケアについて説明し、理解を得ることを繰り返して行います。医師の診断の後、終末期ケア計画を作成し看取りを行うことで、入院ではなく最期まで施設での穏やかな生活を支援します。

・満床であっても、事前面接やご家族の施設見学を済ませている方に待機していただき、退所後の早期入所につなげ空床期間を短縮します。

イ　ショートステイ新規利用者の受け入れとサービスの質向上

・居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの連絡調整を強化し、新規利用者の申し込みを受け入れます。

・利用前後の連絡による情報の共有と要望等の聞き取りで、リピーターの方々が更に満足度の高い利用になるよう調整します。

・ショートステイ事業のサービスの質向上として、「送迎付添いなし」「レクリエーションの充実」「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式での情報収集結果の提供」などを継続し利用者・ご家族の満足度を向上させます。

ウ　施設建物、設備の保全管理

設備の日常点検結果での保全修繕を実施すると同時に、定期点検や建物点検での指摘事項へ対応し、安全な事業を継続します。

エ　地域貢献の展開

・施設の資源を活用した実習受け入れに加え、地域コミュニティ後見プロジェクト受講者の施設研修、東京大学大学院看護学専攻学生の施設研修の受け入れ等拡大していきます。

・施設行事の秋祭りには、教育・普及を目的にした「葛西臨海公園移動水族館」を依頼し、地域の方々はもとより、近隣高齢者施設や幼稚園児・小学校児童へ案内し教育普及の機会を提供します。

5　大泉特別養護老人ホーム等

⑴　収支状況

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
特別養護老人ホーム	⑦ 歳入	517,998 千円	歳入	504,552 千円	歳入	13,446 千円
	介護保険	516,665 千円	介護保険	502,116 千円	介護保険	14,549 千円
	その他	1,333 千円	その他	2,436 千円	その他	－1,103 千円
	⑧ 歳出	514,305 千円	歳出	502,487 千円	歳出	11,818 千円
	人件費	346,059 千円	人件費	346,693 千円	人件費	－634 千円
	運営費	160,487 千円	運営費	153,146 千円	運営費	7,341 千円
	その他	7,759 千円	その他	2,648 千円	その他	5,111 千円
	⑦－⑧収支	3,693 千円	収支	2,065 千円	収支	1,628 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
ショートステイ	⑦ 歳入	71,143 千円	歳入	74,852 千円	歳入	－3,709 千円
	介護保険	70,951 千円	介護保険	74,415 千円	介護保険	－3,464 千円
	その他	192 千円	その他	437 千円	その他	－245 千円
	⑧ 歳出	63,233 千円	歳出	62,476 千円	歳出	757 千円
	人件費	32,633 千円	人件費	33,058 千円	人件費	－425 千円
	運営費	21,088 千円	運営費	19,901 千円	運営費	1,187 千円
	その他	9,512 千円	その他	9,517 千円	その他	－5 千円
	⑦－⑧収支	7,910 千円	収支	12,376 千円	収支	－4,466 千円

	A：予算		B：決算		A－B：差額	
デイサービスセンター	⑦ 歳入	145,680 千円	歳入	142,356 千円	歳入	3,324 千円
	介護保険	145,345 千円	介護保険	141,600 千円	介護保険	3,745 千円
	その他	335 千円	その他	756 千円	その他	－421 千円
	⑧ 歳出	132,572 千円	歳出	127,393 千円	歳出	5,179 千円
	人件費	87,076 千円	人件費	88,060 千円	人件費	－984 千円
	運営費	29,409 千円	運営費	27,424 千円	運営費	1,985 千円
	その他	16,087 千円	その他	11,909 千円	その他	4,178 千円
	⑦－⑧収支	13,108 千円	収支	14,963 千円	収支	－1,855 千円

⑵　利用者状況

①　定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	120 人	365 日	43,800 人
ショート	15 人	365 日	5,475 人
デイ	40 人	309 日	12,360 人
認知症デイ	12 人	309 日	3,708 人

※利用可能定員＝定員×年間稼働日数

②　利用者数（実数）

※平均要介護度＝要介護１～５利用者の介護度合計／要介護１～５利用者数計

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特　養	－	－	15 人	78 人	243 人	454 人	604 人	1,394 人	4.1
ショート	0 人	1 人	59 人	109 人	258 人	162 人	213 人	802 人	3.4
デ　イ	7 人	24 人	311 人	319 人	314 人	138 人	26 人	1,139 人	2.3
認知症デ　イ	0 人	0 人	2 人	8 人	86 人	64 人	99 人	259 人	4.0

③　利用者数（延数）

	延 利用者数計	稼動率
特　養	41,284 人	94.3%
ショート	5,963 人	108.9%
デ　イ	10,233 人	82.8%
認知症デ　イ	2,485 人	67.0%

※稼働率＝延利用者数計／利用可能定員×100

④　新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	34 人	32 人	2 人
デイ	42 人	39 人	3 人
認知症デイ	17 人	12 人	5 人

⑶　施設運営状況

①　苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 26 年 9 月	「夜間事業所に電話を何度かしたがつながらない」という意見がありました。	考えられる可能性を検証し、電話着信の仕組みの周知、切り替えのルール作り、職員への周知をしました。
特養	平成 26 年 12 月	職員に「トイレに行かないようにと言われている」と聞いた家族からご意見がありました。	実際の発言と違いますが、誤解を与えるような発言をした職員がいることを確認し、本人、家族に謝罪の上、当該職員に指導しました。

②　事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 26 年 4 月	入院中の培養検査の結果、結核であると本人の死後判明した。	保健所の指導の下、対象のお客様、職員の血液検査等を行い、経過観察として対応しました。
特養	平成 27 年 1 月	トイレ誘導後、排泄動作補助用具に躓き転倒。右上腕骨頸部骨折の診断を受けた。	保存療法とし施設で様子観察。本人を支えられる距離で介助を行う事を確認して対応を統一しました。

③　地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	平成 26 年度は、地域で活動していただく「施設介護サポーター」の養成を、練馬区の委託を受けて年２回実施しました。平成 27 年度からは、「高齢者支え合いサポーター育成事業」に取り組み、この中で、「生活支援サービスサポーター」と「施設介護サポーター」の養成とコーディネートに取り組んでいます。
特養	通年	障がい者雇用と就業訓練等の受け入れには積極的に取り組み、平成 27 年度は、新たに特別支援学校の卒業生を雇用し支援しています。また、生活困窮者自立支援法に基づく、社協の「生活サポートセンター運営委員会」の運営委員として、就労支援担当者の立場で、生活困窮者の就労支援への取り組みを開始します。

④　研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	年間を通じて、職員の資質向上を目指して、法人や研修センター主催の研修に 98 回（延 203 人）参加しました。また、外部研修には 47 回（47 人）参加しています。
特養	通年	年間を通じて、基本介護技術や認知症ケアの向上等を目指した内部研修を、24 回（延 279 人）実施しました。また、研修や地域での説明会などの講師として、21 回（延 30 人）を派遣しました。

⑤　配置人員数【平成 27 年３月末現在】　　単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常　勤	非常勤	
特養（ショート含）	1	48 人	9 人	54.7 人	5 人	5 人	7.4 人	10 人	12 人	89 人
		（　41 人）			（　4 人）					
デイ	1	6 人	16 人	15.6 人	1 人	3 人	1.5 人	3 人	11 人	40 人
		（8 人（認知症 2 人））			（　　1 人）					

⑥　介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	55 人	3 人	4 人
	非常勤	23 人	7 人	5 人
看護師	常勤	4 人	2 人	人
	非常勤	8 人	1 人	1 人

※人員数は特養（ショート含）・デイの合計数
※年度当初職員数は、平成 26 年４月１日時点の在籍職員数
※年度内入職者数は、平成 26 年４月２日から平成 26 年度末までに入職した職員数
※年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

⑷　施設運営上の課題と取組の方向性

①　平成 26 年度～平成 27 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア　安定した運営と社会資源としての特養の責任を果たすため、利用率の向上に努めました。

・平成 26 年度は、特養利用率とショートステイ利用率の合算で 96%の利用率にとどまりました。平成 27 年度は、８月までの実績で 97.2%に上昇し、大きく改善しました。

・地域包括支援センター等より、緊急の案件や特別の配慮が必要な状態として依頼を受けて利用された方が、平成 26 年度は、特養９人（内措置３人）とショートステイ 20 人となりました。平成 27 年度は８月までの実績で、特養４人（内措置３人）とショートステイ９人となっています。

イ　築 15 年となり、建物、設備、備品等の劣化に伴う修繕費等の増加が顕著となりました。

・平成 26 年度も経年劣化に伴う建物、設備、備品の修繕や交換が必要となっています。長期修繕計画に基づいて計画的な執行を実施していますが、緊急性のある工事や、設備等の故障に伴う交換等も頻発し、事業に支障をきたさないよう、日常点検と業者等との連携の強化に努めて対応しました。

ウ　地域連携、地域貢献への取り組みを拡大しました。

・練馬区介護サービス事業者連絡協議会の副会長と施設部会の代表として、区内の介護事業者の連携と、介護サービスの質の向上に向けて取り組みました。

・石神井地域の「高齢者福祉施設等自衛消防連絡会」が発足することとなり、その地域の部会代表として設立に関わりました。

・施設開放事業として、施設の会議室等を地域の各種団体に貸し出しする「施設貸し出し事業」と施設職員を地域の各種講座の講師として派遣する「福祉講座地域出前講座」を、正式に平成 27 年度より開始しました。

②　平成 27 年度下半期～平成 28 年度の取組予定

ア　安定した運営と社会資源としての特養の責任を果たすため、さらなる利用率の向上に努めます。

・平成 27 年度は、特養利用率 98%とショートステイの利用率 98%を目指して取り組んでいます。特養の退所から新規の入所までの期間を２週間以内に確実に短縮するため、事前の面接を計画的に実施するなど、目標の達成に向けて継続して取り組みます。

・社会資源としての特養が責任を果たすためにも、地域包括支援センター等より緊急の案件や特別の配慮が必要な状態の方に対して、連携の上で積極的な受け入れに努めます。

イ　予防保全と安定した運営を行うため、長期修繕計画に基づく計画的な、修繕および保全に努めます。

・平成 27 年度も経年劣化に伴う建物、設備、備品の修繕や交換が必要となる状態は継続しています。長期修繕計画に基づいて計画的な修繕の執行と、将来を見据えた設備等の改修のために、設備業者や練馬区との連携の上で取り組んでいきます。

ウ　地域連携、社会貢献への取り組みをさらに拡大していきます。

・練馬区介護サービス事業者連絡協議会の副会長と施設部会の代表として、区内の介護事業

者の連携と、介護サービスの質の向上に向けて継続して取り組みます。
・「石神井高齢者福祉施設等自衛消防連絡会」は、東京消防庁管轄で初の高齢者施設の連絡会となりますが、その初代会長として、高齢者施設間の連携と防災協定に基づく相互支援体制を構築します。
・施設開放事業として、施設の会議室等を地域の各種団体に貸し出しする「施設貸し出し事業」と施設職員を地域の各種講座の講師として派遣する「福祉講座地域出前講座」のパンフレットを区内各所に配置し、事業の周知と地域貢献に継続して取り組みます。
・介護支援ロボットの導入を法人として試行的に行い、介護の未来を切り開くために先駆的に取り組んだ結果を地域に発信し、区内最大の社会福祉法人として貢献できるよう取り組みます。